

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成17年9月22日(2005.9.22)

【公開番号】特開2000-212(P2000-212A)

【公開日】平成12年1月7日(2000.1.7)

【出願番号】特願平10-165466

【国際特許分類第7版】

A 6 1 B 3/16

【F I】

A 6 1 B 3/16

【手続補正書】

【提出日】平成17年4月21日(2005.4.21)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

被検眼角膜に対して気流を吹き付ける気流吹付手段と、前記角膜が所定の変形となつたことを検出する角膜変形検出手段とを備え、前記気流吹付手段により変形した角膜状態を前記角膜変形検出手段により検出し、この検出情報を基にして眼圧を算出する非接触式眼圧計において、

前記角膜の変形の際に、第1の圧平状態と第2の圧平状態をそれぞれ前記角膜変形検出手段が検出することを特徴とする非接触式眼圧計。

【請求項2】

前記第1の圧平状態から第2の圧平状態までの時間を計時する計時手段と、

この計時手段が計時した計時時間から前記眼圧を補正する補正手段を設けたことを特徴とする請求項1に記載の非接触式眼圧計。

【請求項3】

前記計時手段は、角膜を所定の変形以上に変形させた際に、この角膜が所定の変形に戻るまでの時間を計時することを特徴とする請求項2の非接触式眼圧計。

【請求項4】

前記気流吹付手段が吹き付ける気流の最大圧力が一定となっていることを特徴とする請求項1または請求項2に記載の非接触式眼圧計。

【請求項5】

前記計時手段は、前記角膜を陥没状態となるまで変形させ、この状態から所定の変形状態に戻るまでの時間を計時することを特徴とする請求項2の非接触式眼圧計。

【請求項6】

被検眼角膜に対して気流を吹き付ける気流吹付手段と、前記角膜が所定の変形となつたことを検出する角膜変形検出手段とを備え、前記気流吹付手段と角膜変形検出手段との情報を基にして眼圧を算出する非接触式眼圧計において、

前記気流吹付手段によって所定の圧力値の気流を角膜に吹き付けて角膜を陥没状態に変形させ、

この陥没量から眼圧を算出することを特徴とする非接触式眼圧計。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するため、請求項1の発明は、被検眼角膜に対して気流を吹き付ける気流吹付手段と、前記角膜が所定の変形となつたことを検出する角膜変形検出手段とを備え、前記気流吹付手段により変形した角膜状態を前記角膜変形検出手段により検出し、この検出情報を基にして眼圧を算出する非接触式眼圧計において、

前記角膜の変形の際に、第1の圧平状態と第2の圧平状態をそれぞれ前記角膜変形検出手段が検出することを特徴とする。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

請求項2の発明は、前記第1の圧平状態から第2の圧平状態までの時間を計時する計時手段と、

この計時手段が計時した計時時間から前記眼圧を補正する補正手段を設けたことを特徴とする。